



2019年 第3号 ご挨拶

日本では、中国経済の減速に関する報道が多いようですが、国の成熟度合いが進むにつれて成長の速度が緩やかになるのは自然なことであると考えます。それでも6%台の成長率を保ち続けているのが中国であるという事実を受け止め、日本企業として、その成長に合わせてどのように貢献できるかを考え、行動に移すべきでしょう。中国では市場とともに成長していくためには常に最新のテクノロジーによる破壊と創造のプロセスを避けて通るわけにはいきません。「リスクを取らないリスク」を真剣に議論すべき時に来ていると思われまます。日本企業は、中国に何かを提供するという意識よりも、中国のより廉価な経営資源を利用するという発想で中国事業を進めてきたと思われまますが、これからのBATをはじめとしたチャイナテック企業との事業展開に関しては、革新的でオープン、かつ変化を求めていくような姿勢が問われることになると思われまます。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

1. 日本企業のチャイナテック戦略

近年、インターネットを中心とした中国テクノロジー関連市場が急速に成長してきました。これは政府の支援政策、インフラとしてのスマートフォンの普及、個人データ収集・活用への高い許容度、テクノロジーに積極的に投資する中国資金市場、およびプラットフォームとしての百度・アリババ・テンセントのいわゆるBATの存在などが主要な要因と思われまます。

KPMGではフィンテックおよびオートテックの主要プレイヤーをそれぞれ50社選び、毎年紹介しています。これらの活動を通して得た知見としては、中国テクノロジーセクターの特異性とダイナミズム、およびエコシステムとしてとらえることの重要性などがあります。

これらを踏まえ本稿では、日本企業の皆様へ、貴社のチャイナテック関連事業の重要性の再確認とこれに対する専門チームの組成、チャイナテックのエコシステムへの積極的な参加、自社の付加価値の明確化、およびグローバルでのチャイナテック戦略の立案などを提言しまます。

> [全文はこちら](#) (日本語)

2. デジタル変革に向けたIT戦略策定のポイント

KPMGの2018年度CIO調査では、IT投資が過去20年で最大となる一方で、これまで伸びていたデジタル戦略の策定状況が一転して減速するなど、デジタル変革を推進することの難しさが垣間見える結果でした。

AI(人工知能)やデータアナリティクスなどの新たな技術は、導入アプローチを含めて従来のITテクノロジーとは異なる点が多く人材の育成・調達が難しいことに加えて、企業やITベンダーの人材が既存システムの維持管理に多くの時間を割かれており、必要な人材や投資をデジタル変革のために投入できないことが主な阻害要因と考えられまます。

すなわち、デジタル変革の推進には新たなテクノロジーに対応する人材の確保と、既存システムにかかるコストや人材への負担の低減を目指した全社的なIT戦略が重要となりまます。

本稿では、企業におけるデジタル変革を効果的に推進するための IT 戦略策定のポイントについて解説します。

> [全文はこちら](#) (日本語)

Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: gjpmarkets.china@kpmg.com

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+86(21)22122247) (日本語)